

## 谷津ミュージアム事業推進専門家会議 会議の概要

1 会議の名称

令和3年度 第1回谷津ミュージアム事業推進専門家会議

2 開催日時

令和3年12月22日(水) 午後2時00分から午後4時10分まで

3 開催場所

我孫子市都部611番地先 岡発戸・都部谷津ミュージアム作業小屋

4 出席した委員

(出席委員)

浅間 茂 委員 谷城 勝弘 委員 平岡 考 委員

松下 直子 委員 長谷川 雅美 委員

5 出席した事務局

(事務局)

海老原参事 藤澤主査長 高橋主任主事 佐々木

6 会議に付した事項等

○委員長及び副委員長の選出

○現地視察(谷津ミュージアムの維持管理について)

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴人

4名

9 会議の内容

<谷津ミュージアムの事業専門家会議委員長・副委員長の選出>

専門家委員の委嘱に伴い、委員長・副委員長の選出をお願いした。互選により、委員長に浅間委員、副委員長に谷城委員が選出された。

<各議員からの意見>

○ナガエツルノゲイトウについて

浅間委員長：ナガエツルノゲイトウを完全に駆除することは難しいが、谷津ミュージアムでは除去する方向で作業を行っていく方が良いと思われる。ナガエツルノゲイトウを肥料にすることを研究している人もいる。外来植物はその種の特性により、それぞれ対処していく必要がある。

谷城副委員長：ナガエツルノゲイトウは人が管理しているような田んぼや水田のような場所に出てくる。在来植物が生息している場所は在来種同士での種間競争が行われており、そこを人が刈ると、裸地にナガエのような外来種が潜り込んで生えてきてしまう。一番の方法は在来種も含め、そのままにすること。

ナガエツルノゲイトウを駆除して捨てるだけでなく、肥料にすることも検討していくべきだと思う。もし肥料にすることができたのなら、地力ができ、成長に良い影響も出ると思う。

駆除活動にはボランティアと協力しながら実働する人に重きをおいて活動してほしい。

植物が成長しやすい夏ごろなどに5、6回程度作業を実施で問題ないと思われる。

長谷川委員：ナガエツルノゲイトウの根絶は難しく、害が出ないように抑制する方法を考える。繁殖し支障がある場所は徹底的に駆除し、他はそのままにするなど作業内容を考える。以前、駆除した経験があるが、その時は特定外来生物という理由で駆除をしたわけではなく、治水の要である排水機場に影響が出てしまったため農家と農薬で除草作業を行った。

草がなくなることによって畔が崩れてしまうということで除草したくないという意見もあった。除草したものに関しては一緒に作業を実施し1か所にまとめ処分した。

アスファルトやコンクリートの上で干からびさせてから、コンポスターなどで肥料にするのがいいと思う。農家はコンバインなどによって拡散してしまう可能性があるため、その対策をする。現場の人にすべて任せると負担が大きいため、作業を行う際は話し合うことをお勧めする。また、真夏の作業は大変なので、春先に行い、秋、冬で作業した方がよいと思う。

松下委員：谷津ミュージアムで農薬を使用するのは好ましくないと考える。外来種がすべて悪いわけではないが、少ないうちに対処するということが重要だと考えさせられる。

#### ○アゾラクリスタータについて

谷城副委員長：アゾラクリスタータの駆除は難しい。胞子で増えるため、どんどん繁殖してしまう。さらに遺伝子検査じゃないと在来種か外来種かの判別がつかない。谷津ミュージアム内のデンジソウに関しては、研究所のメンバーから外来種のナンゴクデンジソウであると聞いているため、駆除をしてよいと思う。

#### ○その他

浅間委員長：植物の移植については前に話した通り、手賀沼流域周辺に生えている植物だったら移植は問題ない。谷津ミュージアム外から持ってくる場合は事前に手賀沼課に相談をする。

平岡委員：例としてどの植物の希望があるのか。

傍聴人 A：希望はないが、以前まで見なかった場所にヒヨドリバナ、ナギナタコウジユ、チダケサシ等の植物が確認されている。谷津内の植物の移植が行われていることを事務局は知らないこともある。谷津ミュージアム内の植物の移植について様々な考え方があるが、勝手に移植してしまうと自生していた場所がわからなくなってしまうので、手賀沼課とも協議しながら、運用ルールを策定していきたいと考えている。

平岡委員：山野草として人気のある種とわかった。

谷城副委員長：原則、谷津ミュージアムの外部から持ってきて植えるのは良くない。植物の遺伝子の攪乱などを起こさないよう、自然にあるものを守るために活動してほしい。

長谷川委員：希少なものなどは実施しても問題ないと考える。しかし、衝動的にやるのではなく、いつ、だれが、どこのを、どこに植えたかなど計画的に行い、共有できるシステムをつくる。

#### <各委員からの意見>

浅間委員長：維持管理作業について座学ではなく、実践しながらの方が理解が深まる。近々、講義等を実施しても良いと思う。

谷城副委員長：ボランティアの意義を考え、ボランティアの存在を大事にしてほしい。

長谷川委員：生物が棲める環境にするためには汚水を減らし、水環境を良くする必要がある。上流部の水路に流れている生活用排水などを対処してほしい。事業構想へ反映や、関係課と調整して水循環を改善してほしい。